

人・story

やすたけ まさこ
安武 真佐子さん

(マーサメリー社長)

身体でリズム 「タップ」音楽伝えたい

言葉の端々からリズム・タップに対する熱意が伝わってくる。

「『リズム・タップ』は、身体でリズムを刻む音楽。もともとタップは、米国の黒人奴隷がコミュニケーションを図るために使っていたドラムを白人に取り上げられたことで生まれたんです。ステップに耳を澄ませるとタップ（踊り手）の心が聞こえてくる」

日本では、ダンスとしての「タップ」は一般に知られるようにならなかったが、音楽としては認識されていない。音楽ではないので、これまでタップのライブは、ほとんど開催されていなか

った。

「リズム・タップ」の魅力にとりつかれて、若手を中心としたタップのライブのプロデュースを二〇〇三年七月から始めた。自ら主催し、企画制作、司会進行まで担当している。

ライブの名称は「Tam Tam Tap Tap」(タムタムタップ)にした。タムとは「タップは音楽」という意味の「タップ・アズ・ミュージック」の略語。

ライブは二カ月に一回のペースで定期的で開催している。今年三月には、個人事業から会社組織にしてライブ、イベント、タップ講座のプロデュースなど

も本格的に手掛けるようになった。

リズム・タップのライブ開催だけでなく、企業と提携したイベントやカルチャースクールでのタップ講座の開催にも力を入れている。リズム・タップの講演や指導、歴史などを同時に教えていくことで「幅広い層にリズム・タップの魅力を伝えたい」という。



△プロフィール▽ 上智大 外国語学部から米オハイオ州

のハイデルベルグ・カレッジ音楽学部ピアノ科に編入。卒業後、ミュージシャンの甲斐よしひろ氏のソロ・ツアーの通訳として音楽業界に入る。ニューヨークで日本人ミュージシャンのレコーディングのコーディネーターや通訳を仕事に10年間、米国で働く。

い」という。

「タップを見て感動した」のは初めて出会った小学生のころ。米国ニューヨーク生活が長い。日本人ミュージシャンのレコーディングに関するコーディネートや通訳など音楽ビジネスにかかわってきた。

が分かり、タップの魅力にはまったのは、十年間米国で暮らした後に帰国してからという。ミュージシャンの佐野元春氏のマネジャーをしているときに、タップを習い、その魅力にとりつかれた。

「リズム・タップを普及させるビジネスに取り組もう」と決

- 【座右の銘】親切で、慈しみ深くありなさい。あなたに出会った人がだれでも、前よりもっと気持ちよく、明るく帰るようになさい。(マザー・テレサの言葉より)
- 【好きなブランド】ILARY (アイラリー)
- 【行きつけの店】桂花 (中華、東京・成城)、華寿司 (東京・成城)
- 【好きな音楽】モーツァルトのピアノ協奏曲第20番ニ短調
- 【乗用車】BMW318i
- 【腕時計】グッチ

意し、〇四年三月にマーサメリーを設立して社長に就任した。

(財川典男)